

---

## 巻頭言

生涯発達研究所長 山本理絵

生涯発達研究所が設置され、本年度で6年目になります。今年度から所長が替わり、この『生涯発達研究』の内容も刷新することになりました。本研究所が「乳幼児から高齢者まで人間の生涯発達について、地域と結びついた教育福祉に関する共同研究」を進めていくことに変わりはありませんが、研究成果や情報を地域のみなさまにわかりやすく伝え、より読み応えのある内容にしていきたいと考えています。

本研究所が現在取り組んでいる研究プロジェクトは、「困難を抱える子ども・若者に対する地域協働による発達支援に関する総合的研究」です。これまで取り組んできた発達障害児に対する支援から、さらに被虐待児、外国籍児、不登校・引きこもりの問題など、特別なニーズをもつ子ども・青年に対象を広げ、複雑に絡み合っている諸問題に対して、教育・心理・芸術分野、福祉分野、医療・保健分野等、多角的な視点から解決方法を探っていきたいと考えています。それは、教育発達学科と社会福祉学科の2学科からなる教育福祉学部及び大学院人間発達学研究科を基礎にした生涯発達研究所だからこそ可能になるアプローチであり、地域の様々な機関・団体等と結びつきながら、学部・研究科の特徴を活かした研究所の活動を展開していきたいと思えます。

この間、前述のプロジェクト研究事業の一つとして、高浜市教育委員会及び瀬戸市教育委員会と連携・協働し、通常学級支援として実施してきた巡回相談事業をもとに、愛知県総合教育センターとの共同研究の一環として2011度末に『地域連携による発達障がい児の支援—幼児期から高校まで—』（事例集）を編集・発行しました（平成23年度学長特別研究費交付）。また、愛知県総合教育センターとの共同研究「発達障がい支援スクールボランティア研修に関する研究」による調査報告書「愛知県内小中学校における発達障がい児支援学生スクールボランティアの実態と課題」を2012年度末に発行いたしました。この共同研究は現在も継続して行っています。さらに今年度から、瀬戸市教育委員会学校教育課及び瀬戸市こども家庭課（発達支援室）と「特別支援教育リーダー養成プログラム開発研究会」を立ち上げ、「平成25年度 特別支援教育リーダー養成講座 第一課程」を開催しました。これは、3年計画で第三課程まで実施し、その後

プログラムを改善し発展させていく予定です。

学生達も地域と連携して、様々な活動を行っています。今年度、教育発達学科の学生が行った「学生自主企画研究」の成果として作成した「ながくて子育て支援はびねすマップ」を生涯発達研究所ホームページに掲載していますので、ご活用ください。

本研究所には専任のスタッフはおらず、研究員は学部・研究科の教員が兼任しています。研究員を中心として学部・研究科全員で28名の教員が何らかの形で研究所事業に関わるようになりますが、十分行き届かないこともあるかもしれません。しかし、地域のみなさまのニーズに応えられるように、研究事業、研修事業等を推進していく所存ですので、共同研究や共催事業等のご要望、ご意見等、遠慮なくお聞かせください。